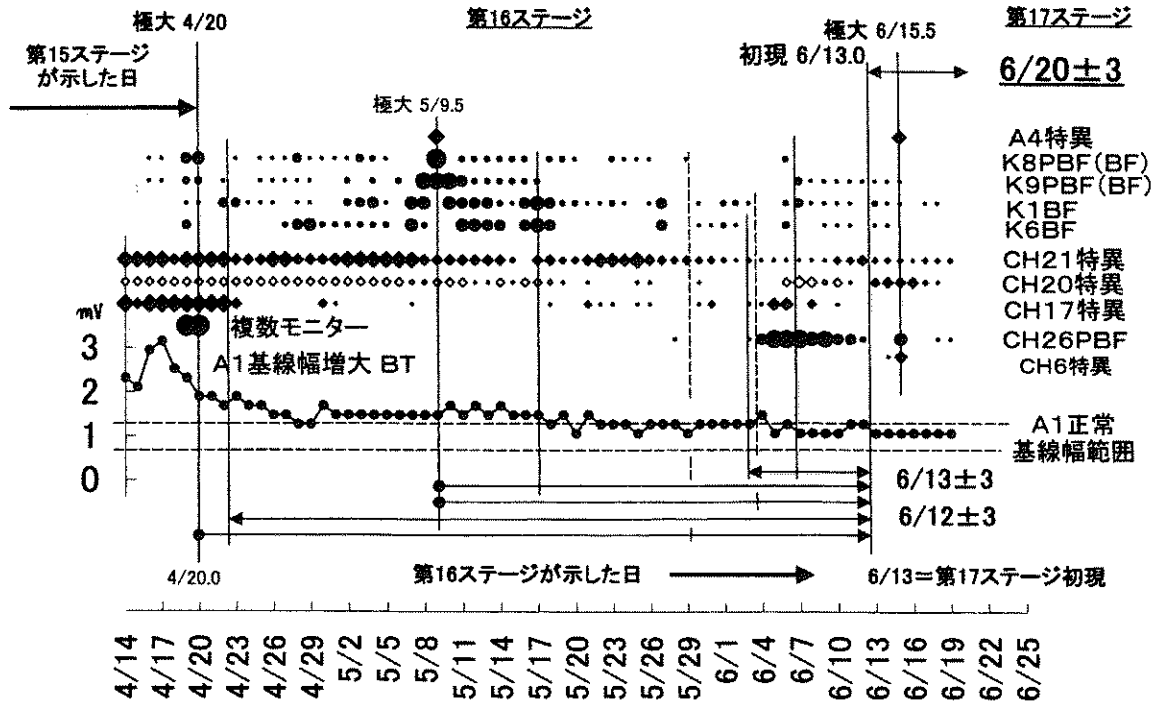


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 6/19夕刻現在CH21前兆継続中→6/20発生は否定可能 近々発生の場合でも6/21以降



前の情報で、第16ステージが示した日は、次ステージの初現であった可能性を記し、6/15.5に極大が出現したため、この認識が正しい場合には、6/20±発生の可能性が否定できないことを報告。但し本日6/19 夕刻17時過ぎ段階でCH21の前兆のみ継続中のため、極大～終息の関係経験則から、6/20発生の可能性は否定。上認識が正しい場合には、前兆極大～発生迄の期間=τmap日数が短いため、誤差も小さい可能性を考えましたが、一応±3日（-はあり得ないため、+のみ）を考慮します。前兆が今夜深夜迄に終息した場合=6/21午前の可能性。明日未明迄に終息の場合=6/21午後の可能性。明日の夕刻迄に終息

の場合=6/22午前の可能性 等と計算できます。左下参照。

(終息の場合) (発生推定) 基線幅増大BTの日々変化からは  
6/19 20h~22h⇔6/21午前 午前09時±1 時間帯の可能性と  
6/20 0h~06h⇔6/21午後 午後06時±3 時間帯の可能性が  
6/20 08h~17h⇔6/22午前 考えやすい状況ですが、午前の  
6/20 18h~24h⇔6/22午後 方がBT変化が揃っています。

明日6/21迄終息しない場合は6/23となり、誤差の最大範囲となります。本日CH4 に特異状態が出現。これが初現で6/20~22に極大が出現する可能性もあり

得ます。その場合は6/27±等が計算されます。今夜以降の観測データを含み、続報でご報告予定。少なくとも6/20発生は否定できることを報告させていただきます。

- ◆推定領域: 右図
  - ・大枠推定領域=点線領域内
  - ・推定領域 =大線領域内
  - ・参考推定領域=斜線領域
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5  
(参考: 火山帯近傍地殻地震前兆=M6.7 ± 0.5 を示す)
- ◆推定時期: 6月22日 ± 1 ⇔ (6月20日前兆終息が条件)  
(※6月22日迄に前兆終息が認められない場合は、6/20±の極大の有無を観測し、再考し続報させて戴きます。)



- ◇推定発生時刻: 午前9時 ± 1 (又は午後6時 ± 3) ※上図は最も考えやすい前兆出現影響局から求めた推定領域(大線内領域)です。可能性低ですが、影響局誤認の場合は全く異なる領域となります。仮に別の領域での発生となった場合は陳謝致します
- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震